

## 事業概況

## 懸架ばね事業

## ●2019年度実績

売上高 1,263億円

営業利益 27億円

売上高・構成比

19.0%



専務執行役員  
ばね生産本部本部長  
尾山 二郎

## 成長への取り組み

懸架ばね分野においては、国内の自動車生産台数は頭打ちの状態が続き、その環境下でも事業の成長を遂げていくためには、新製品の研究開発で新たな市場をつくっていく必要があります。すでに従来のばねから、「軽量化」「乗り心地」を付加価値とした製品性が求められており、このニーズに対する「解」をつくり出すことが懸架ばね事業の成長につながると思います。具体的には、FRPばね\*、姿勢制御用アキュムレータ、中空コイルばねなどがあげ

られ、国内はもとより海外においても開発品の提案を進めているところです。

売上を伸ばすという視点では、ボリュームメリットは海外にあり、積極的な展開が必要になってきます。すでに当社では主たる海外拠点の設置は完了しており、生産対応の基盤はできていますので、今後は開発品を含めたグローバルでの生産対応において、「ものづくり力」を効率的にグローバル展開していきます。

\*FRPばね：繊維強化プラスチックばね

## 強み

- ばね製造における高い固有技術を保有
- グローバルでの事業展開
- 品質・価格・開発・納期すべての対応における総合力

## 機会

- HEV、EVなどの環境性能を重視した車に対する「軽量化」の提案
- 自動運転、無人運転に対する「乗り心地」の提案
- 高品質要求に対応した付加価値の向上

## リスク

- 国内市場の縮小による、国内ボリュームメリットの喪失
- 競争の激化

## ●主要製品

- コイルばね
- 板ばね
- スタビライザ
- アキュムレータ
- トーションバー
- スタビライザリンク
- スタビリンカーほか



コイルばね



板ばね



スタビライザ



アキュムレータ

## 事業概況

## シート事業

## ●2019年度実績

売上高	3,025億円
営業利益	69億円

売上高・構成比

45.5%



常務執行役員  
シート生産本部本部長  
小野 達朗

## 成長への取り組み

自動車用シート分野においては、顧客優先意識の徹底と、品質維持継続の2点を軸に事業を進めています。

顧客優先意識に関しては、各顧客それぞれの開発拠点に寄り添った体制を一層整えることで、顧客の期待するスピードにしっかりと対応できることを目指しています。品質の維持継続については、開発手順の見直しを進めることで、各顧客の期待にしっかりと応えていきます。

また、収益性の確保に関しても、開発・ものづくりでの競争力の強化を進め、他社との差別化を図るとともに収益力の向上を狙っていきます。

シート事業は、他社との競争がより厳しくなっていることに加え、昨今の安全・品質に対する顧客要求のレベルアップにより開発費が増加するなど、営業利益を圧迫するようになってきています。厳しい環境ではありますが、前述の各項目の課題をしっかりと達成することでさらなる発展を目指します。

## 強み

- 金属加工、ウレタン、縫製などシートに必要な各種工程を内製していることによる、顧客のニーズに合った提案力
- 各カーメーカーとの取引に基づく、シート完成品の総合的な開発設計力とベンチマーク力

## 機会

- 自動運転化の進展にともなう、快適性、新機能などのシートに対する要求性能の変化による付加価値の向上
- 独立系シートサプライヤーであるため、各カーメーカーに対し拡販活動が可能

## リスク

- 独立系シートサプライヤーゆえの、品質・価格・開発など、厳しい競争への対応

## ●主要製品

- 自動車用シート
- シート用機構部品
- 内装品ほか



薄型サスペンションシート



ワンボックスワゴンシート



自動車用シート組立ライン



フロントシートフレーム

## 事業概況

## 精密部品事業

## 精密ばね事業

## ●2019年度実績

売上高 1,429億円

営業利益 62億円

売上高・構成比

21.5%



常務執行役員  
精密ばね生産本部本部長  
大竹 一彦

## 成長への取り組み

精密ばね分野においては、エンジン・トランスミッション部品に代表される自動車部品をはじめとして、HDD\*用機構部品、半導体検査用プローブなど、幅広い分野に製品展開を行っています。特に近年は100年に一度の大変革期といわれる自動車の電動化ニーズに対応すべく、高精度プレス加工技術を基盤としたモーターコア事業の拡大に注力しています。工法の見直しなどにより収益力向上に取り組むつつ、採算性を見極めながら事業拡大を図ります。また、今後は5GやIoT技術などを背景にした半導体市場の拡大、これにともなう半導体検査用プローブの需要増が期待されます。当社のばね微細

加工技術を生かした次世代高周波・高電流対応のマイクロコンタクタ開発に注力し、積極的に拡販機会を狙っていきます。

一方、自動車の電動化シフトにより既存エンジン部品は今後緩やかに減少傾向、トランスミッション関連の線ばねもこれまでのような需要増は見込めないと考えられ、市場規模の頭打ちにともなう競争激化が予想されます。線ばね事業では、製品力の強化とともに、収益のさらなる向上のため、昨年度から進めてきた「ものづくり改革」の成果をグローバルに展開することによる生産効率向上を目指します。

※ HDD：ハードディスクドライブ

## 強み

- 高精度加工技術、微細化技術
- 設計解析技術
- 材料開発、熱処理・表面処理技術

## 機会

- 電動化シフトと関連製品分野の需要拡大
- 半導体市場の拡大(検査用プローブユニットの需要拡大)

## リスク

- 電動化シフトによる既存エンジン部品の需要減退(競争の激化)

## ●主要製品

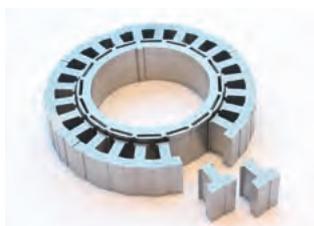
- HDD用機構部品
- 線ばね
- モーターコア
- 液晶・半導体検査用プローブユニット
- ファスナー(ねじ)
- 精密加工品ほか



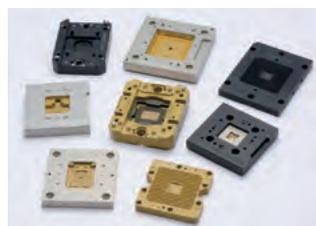
HDD用機構部品



ロックアップクラッチダンパー(線ばね)



モーターコア



マイクロコンタクタ/ユニット

事業概況

# 精密部品事業

## HDD用サスペンション事業



常務執行役員  
DDS生産本部本部長  
**藤原 哲哉**

### 成長への取り組み

HDD\*1用サスペンション分野においては、モバイル用HDDの出荷台数がSSD\*2搭載が進むことにより減少する中で、当社は1台当たりのサスペンション使用数が多いデータセンター用HDD向けのサスペンション開発、量産ラインへの投資をいち早く展開しシェアを獲得し、売上を拡大してきました。データセンター向けに高容量HDDのニーズが高まる中、サスペンション仕様求められる技術も非常に高度になっています。当社は顧客から信頼されるパートナーとなるべく、開発設計段階での連携を強化し、デザイン提案と性能評価でのサポートを積極的に行っています。

また、駒ヶ根工場をマザー工場として生産技術、キーパラメーターの標準化を実施することで、どの拠点からも、同一水準での品質管理が可能となっています。製品品質の向上と並行して、固定費の削減にも取り組み、ラインの自動化やタクトアップ、生産性改善による合理化を随時、推進しています。当生産本部はOne Teamをスローガンに、各拠点のリソースを相互に結集し、効果的に事業を運営することで、未来のデータセンターを支えるキーサプライヤーとなるべく、さらなる高みを目指し日々邁進しています。

※1 HDD：ハードディスクドライブ  
※2 SSD：ソリッドステートドライブ

#### 強み

- データセンター用HDDのサスペンションにおける世界トップシェア
- 各客先ごとに開発段階から提携が可能なことによる、顧客仕様と当社における量産性を兼ね備えたデザイン提案力
- 日本、中国、タイの3拠点における各客先拠点の需要に合わせた同一品質のサスペンションの柔軟な供給体制

#### 機会

- データセンター用多枚盤HDDの需要増加による、1台当たりのサスペンション使用数の増加にともなう売上拡大

#### リスク

- 顧客からの原価低減要求への対応

#### ● 主要製品

- HDD用サスペンション



HDD用サスペンション



大容量HDD向けDSA



超大容量HDD向けCLA



HDD用サスペンションの生産

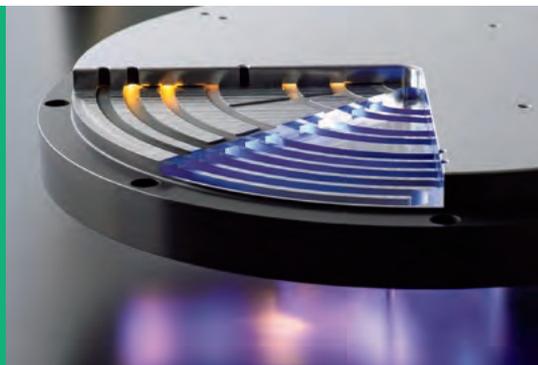
## 事業概況

## 産業機器ほか事業

## ●2019年度実績

売上高	926億円
営業利益	48億円

売上高・構成比  
14.0%



常務執行役員  
産機生産本部本部長  
杉浦 啓修

## 成長への取り組み

産業機器分野の事業は多岐にわたり、中でも金属基板と半導体プロセス部品は、近い将来における成長の大きな柱です。

コロナショックにより2020年度の自動車産業は世界的に苦戦を強いられる見込みです。しかし、金属基板製品はパワーモジュール、二次電池関連部品、LED照明関連部品など、特に今後拡大していくカーエレクトロニクス市場で高いシェアを獲得しています。今後予想されるさらなる市場拡大に向け、国内・海外工場の設備更新とレイアウト最適化を進め、品質・生産性の向上とともに能力増強を図っています。

また、今後電動化が進展していく中でさらなる大電流・高電圧の電子制御ニーズの拡大に対し、新素材、新構造の製品開発によって売上拡大を図っていきます。

一方、半導体プロセス部品に関しては、長野県に最新設備を備えた工場を新設し、国内・海外の半導体製造装置トップメーカーが求める最先端技術に対応し、高効率で量産供給できる体制を整えています。

また接合技術の開発により、新たな製品分野の試作品を多く受注しており、次期中期経営計画内の本格量産開始を見込んでいます。

## 強み

- 6つのビジネスユニット、各々の分野において不可欠なキーパーツを供給し、トップ、それに準ずるシェア保有
- あらゆる産業分野のビジネスチャンスをとらえ、新たな製品を生み出すことが可能な非常に幅広い顧客ベース
- 早い意思決定を可能にする、ビジネスユニットごとの高い独立性と機能性

## 機会

- ビジネス対象の産業分野の広さ

## リスク

- 多品種少量のビジネスが主であることによる受注変動の影響大
- 3H(初めて、変更、久しぶり)が多い生産条件に対応するための品質管理能力
- 事業経験がない新規進出分野における事業リスクの把握

## ●主要製品

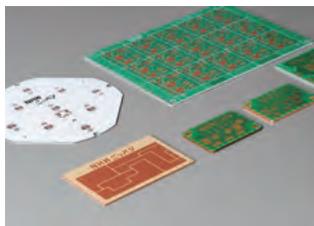
- 半導体プロセス部品 ●セラミック製品 ●ばね機構品 ●配管支持装置 ●ポリウレタン製品 ●金属基板 ●駐車装置
- セキュリティ製品 ●照明器具 ●ゴルフシャフトほか



半導体プロセス部品



鉄道用テンションバランス



金属基板



[N.S.PRO]ブランドのゴルフシャフト